

学びのコミュニティ研究所第3回

平成 29 年 1 月 8 日（日）17：30～

鬼北町 おだいし庵

（愛媛県北宇和郡鬼北町北川 450 番地）

参加者：讃岐・松浦・西村・堺・中尾・仙波・八木・讃岐・遠藤・長島

1 讃岐所長挨拶

1 月 22 日に行われる学びのコミュニティ研究会について打ち合わせをする。文部科学省の方も来られるので、いい会になるよう知恵を出してほしい。

2 問題提起講演は 13：00～14：00。文科省の木村参事官がしてくださる。そのあとのグループ別協議（KJ 法）14：10～15：40。について考えていく。進行は事務局遠藤と進め人中尾が協議する。

① グループ分けについて

名簿にナンバーを書いておいて分かれてもらう。グループメンバーは意図的に、なるべくいろいろなジャンルの方が 1 つのグループになるよう配置する。

参加人数はおよそ 80 名を予定しているので、7 人とすると 12 グループできる。

② 全体発表 15：40～17：10

全グループに発表していただくと、時間が足りないので、3 グループ程を目安に。選ぶのはアドバイスの廣田参事官補佐と中尾で。

できる限り本音で話せるような会にしたい。例えば、「コミュニティ・スクールは何を必要としているか、何をもたらすのか」とか。

今回、学校関係者がたくさん来られるので、「理想の未来像に向かうために学校と地域が協働して打つべき一手」※社会教育の取り組みにとどまらず、教育課程にも踏み込んだ提案に（資料問題提起講演の構成案 5）を重点的に協議していく。学校・地域・子どもにとってメリットがないといけない。

地域ぐるみでどんな子どもたちに育てたい？（構成案 3）のところは、廣田氏と CS マイスターの西村氏で。コミュニティ・スクールにするとということで、無理やり体制を作るところ、全体の協働が必要かどうかという学校や地域もある。

③ アンケート

参加者で話したりなかったところや、疑問に思ったところなど、記入してもらう。

集計して、アドレスが分かっている人には情報を流す。また、他のグループの話し合いは、それぞれの模造紙に書かれたコメント等を撮影し、参加者のフォローアップにつなげたい。

3 学びのコミュニティ研究所としては、コミュニティ・スクールは地域教育へのツールの一つとして考える。多忙感やお金の問題もあるが、本格的にやってみようと思っただければ成果とする。